

# 人道主義は「美しい」のか



日時：2017年10月14日（土）14:30～17:30（14:00開場）

場所：南山大学 R棟5階 R55教室

演題：「国際社会における  
トラスティシップと人道主義」

講師：五十嵐 元道

（関西大学 政策創造学部准教授）

コメンテータ：大竹 弘二

（南山大学 国際教養学部准教授）

司会：山田 哲也

（南山大学 総合政策学部教授）



「人道主義」は、「人間の痛みへの共感」という純粋な心情に基づくものとして称賛されがちです。苦しみの中にいる人を助けたい、という情熱の下で多くの人が行動しているのは周知の事実ですが、果たして、この理解は正しいのでしょうか。支援「する」側と支援「される」側の関係は、常に対称ではなく、実はそこに隠蔽された「権力性」があるということを考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

このような問題意識の下で、今回は国際政治学がご専門の五十嵐元道先生をお招きして、過去の植民地支配から近年の平和構築に至るまでの言説構造の中に秘められた「トラスティシップ」についてご報告頂きます。イギリス帝国は植民地統治を正当化するために、複雑な理論体系を必要としましたが、それとまったく同じように、冷戦後の人道的介入と平和構築も、その巨大化する権力を正当化するための理論体系を必要としてきました。今回の懇話会では、植民地統治をはじめとする「人道主義」が人道的だったということではなく、むしろ植民地統治の「理念」の形成に携わった人々の意識に人道主義が強く働いており、その言説構造が冷戦後の介入と統治においても再生産されているという五十嵐先生のご研究内容に基づいて、国際社会におけるトラスティシップについて議論を深めたいと思います。

【お問合せ】南山大学社会倫理研究所

Phone: (052)832-3111(内線3413・3414) Fax: (052)832-3703

Email: ise-office@ic.nanzan-u.ac.jp HP: <http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/>